



生涯学習 まなびの森

平成16年度生涯学習標語コンテスト佳作

「受けついだ祖父母のちえは宝物」

阿部 慎(星野)

仲間と学んだ “協力”と“自立”

星野地区通学合宿

合宿をしながら学校へ通う生活体験プログラム「星野地区通学合宿」が9月13日から星野地区で行われ、5・6年生が5日間の共同生活を体験しました。



悪戦苦闘の食事づくり。家事の大変さ、お母さんの苦労が分かりました。

星野小学校時代から数えて六回目の開催となった星野地区通学合宿は、学校が統合となった今年、地区PTAと葛巻小学校、生涯学習課が連携して実行委員会（委員長・小田隆夫星野地区PTA会長）を組織して進められました。

五・六年生十一人は、地区のセンターに宿泊し食事づくりや掃除をしながら通学。「自分のことは自分でやる」「みんなと協力し、助け合う」という約束事を守って、四泊五日を生活しました。

体験を今後に生かそう

実行委員長の小田さんは「子どもには家庭に帰ってからもこの体験を生かして生活してほしい。親としては子どもに手をかけ過ぎず、いろんなことに挑戦させたい」と話していました。

食材の買い出し。「余裕があったら、お菓子も買えるかな」



初めての通学合宿

下屋鋪千絵美 (葛巻小5年)

私は通学合宿を四年生の時から楽しみにしていました。食事づくりでは迷惑をかけることが多かったけれど、みんな心配して声をかけてくれました。私はこの



合宿で「助け合い」について学びました。

地域で育てる青少年⑤

～活動紹介・江刈地区「魚に親しむ会」～

江刈地区子ども会（会長・田代徹、葛巻高2年）では夏休み中に「魚に親しむ会」を開催しました。保育園児から高校生までの会員53人と地域の大人15人が参加。用水路に放流された200匹のイワナのつかみ取りに挑戦しました。

子ども会の役員は、事前に打ち合わせ会

を開き、活動内容を自分たちで企画。当日は高校生が率先して行動し、小中学生をうまくリードしていました。

このほか江刈地区では、ミニサッカー大会やユニホック大会の練習も地区子ども会の活動として取り組み、中高生が小学生の指導にあたっています。

